

TZ 〈ほんの窓〉

第 26 号(2010.6.1) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

アカデミック・スキルズ — 学びの技法 2010 —

大学での勉強は高校までの勉強とは違う、という話をよく聞かれます。違うのは分かるけど、どう違うの？どうしたらいいの？という方のために、大学での学びの技法(アカデミックスキル)を紹介した本がたくさん出ています。

今回は、アカデミックスキルの中でも、レポートの書き方や論文の書き方の初歩について書かれた本をご紹介します。

なお、昨年(2009)の第 20 号でご紹介した本と一部重複しています。

■ アカデミックスキル

『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』 佐藤望編著、慶應義塾大学出版会、2006.10【0020:101】

慶應義塾大学での授業「アカデミック・スキルズ」を元に作られたテキスト。「アカデミック・スキルズ」とは…学問の目指すより幅広く深い教養を身につけるための基礎技術、「大学で学ぶための基礎的技法」である。「アカデミック・スキルズ」は、教養そのものではない。これから一生かけて築いていく幅広く深い教養を積み上げるための、基礎となるものである」としています。情報整理や、検索、アウトプットの技法がコンパクトにまとめられていて、読みやすいと思います。「書式の手引き(初級編)」が附録についているのも便利です。

- 第 1 章 アカデミック・スキルズとは
- 第 2 章 講義を聴いてノートを取る
- 第 3 章 図書館とデータベースの使い方
- 第 4 章 本を読む — クリティカル・リーディングの手法
- 第 5 章 情報整理
- 第 6 章 研究成果のアウトプット

『よくわかる学びの技法』第 2 版 田中共子編、ミネルヴァ書房、2009.12 【3700:3668】

学部 1 年生を中心として「卒業論文の入り口にたどり着くところまで」を対象に、「主に人文科学系の科目を想定しましたが…社会科学系にも共通」の部分がほとんどです。「大学で何を学ぶのか」からはじまり「ノートの取り方」「レポートを書く技術」「上手な口頭発表」「文献の探し方」「調査の例と基本のまとめ方」などアカデミックスキル全般について触れられています。

『文科系必修研究生活術』新版 東郷雄二、筑摩書房、2009.4(ちくま学芸文庫:[ト-11-1])【0020:146】

「これから卒業論文・卒業研究に取りかかろうとしている人たち」「文科系学部へ入学して、将来研究者になりたいと考えている人たち」などを対象としている本書は研究者志向の人向けと言えますが、ちょっとでも大学院への進学を考えたことがあるならば一読をお勧めします。指導教員、研究仲間、研究テーマの選び方などが、具体的な例とともに解説されています。

■ 問いの立て方

『創造的論文の書き方』伊丹敬之、有斐閣、2001.12【8100:486】

修士レベルの論文の書き方をまとめたものですが、学部生にも十分参考になると思います。全体は「対話編」と「概論編」に分かれていて、「対話編」では、特にテーマさかしのいろいろを対話形式で述べている部分は特に読みやすく参考になります。「概論編」では、「対話編」で語られたことがより詳しく解説されています。「まず風呂に入る」「人はリニアにしか読めない」「鳥の目と虫の目」など、面白くかつ役に立つキーワードが散りばめられています。

『知的複眼思考法』 荻谷剛彦、講談社、1996.9【1400:723】

「知的複眼思考法」とは「ありきたりの常識や紋切り型の考え方にとらわれずに」「ステレオタイプから抜け出して、それを相対化する視点」を持ち「複数の視点を自由に行き来することで、一つの視点にとらわれない相対化の思考法」です。本書では、そのための読書の方法、作文技法に続いてレポートの書き方にとっても重要となる「問いの立てかたと展開のしかた」が紹介されています。

『経済論文の作法：勉強の仕方・レポートの書き方』増補版 小浜裕久、木村福成、日本評論社、1998.2 【3310:521】

「本書は、レポートや卒業論文を書こうとしている経済経営系の学部学生あるいは大学院生…を対象としており、レポート・論文を書く際のノウハウ、あるいは基本的作法を述べています。経済経営系とは謳っていますが、テーマがしの方法、書きはじめる、構成を考える、論文の書き方、発表の仕方など、経済学部以外の学部生にも役に立つ内容となっています。

■ ライティング

『これから研究を書くひとのためのガイドブック：ライティングの挑戦15週間』 佐渡島紗織、吉野亜矢子著、ひつじ書房、2008.5 【8100:924】

早稲田大学でのアカデミック・ライティングの授業等を元に書かれたもの。「本書は、「学問すること」を「知識」と「方法」に分けたとすると、その「方法」に当たる部分に関わっています。すなわち、皆さんの、専門分野における「知識」がより深く、広く、価値の高いものになっていくための「方法」を示そうというものです」とあります。レポート・論文の書き方に類する本は山ほどありますが、この本は、よくある文章読本風のものやくすく書けるレポート＜風なもの＞と違い、実際に授業を前提に、しっかり組み立てられた丁寧な解説がなされています。

『文章力の基本：簡単だけど、だれも教えてくれない77のテクニック』 阿部紘久、日本実業出版社、2009.8 【8100:996】

文章の書き方を書いた本は無数にありますが、この本が一番簡単に「土台」と感じました。著者が大学で文章指導をする中で得た実際に「学生が書いた豊富な文例とともに説明」されています。

■ フィールドワーク・質的研究

『フィールドワーク：書を持って街へ出よう』増訂版 佐藤郁哉、新曜社、2006.12 (ワードマップ)【3610:2606】

フィールドワークあるいは質的研究、参与観察、エスノグラフィという方法に興味のある方には一読を勧めます。著者は、これらの対語とみなされがちだった量的研究や実証的研究との対立ではなく、「不毛な二分法を越えて」「フィールドワークをおこなう場合には、質的データだけでなく、さまざまなタイプの量的データをも活用」する「トライアンギュレーション(方法論的複眼)」を勧めています。

著者はフィールドワークの技法について、以下のような入門書も手がけており、また多くのエスノグラフィの著者としても有名です。

『実践フィールドワーク入門：組織と経営について知るための』 佐藤郁哉、有斐閣、2002.11 【3610:2058】

『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 佐藤郁哉、新曜社、2002.2 【3610:1931】

『数字で語る：社会統計学入門』 ハンス・ザイゼン著；佐藤郁哉訳、新曜社、2005.3 【3610:2351】

統計数値の入手が比較的容易になり、また自分で調査した数値などを扱う機会も多いと思います。そういう場合、たとえば「パーセント」をどう使えばいいのか、調査の結果をどう扱えばいいのかなどが具体的な調査に基づいて解説されています。また、この本の最後でも「トライアンギュレーション」について触れられています。

『質的研究入門：「人間の科学」のための方法論』 ウヴェ・フリック著；小田博志、宮地尚子 [ほか] 訳、春秋社、2002.10 【3610:2057】

質的研究の理論、研究デザイン、ナラティブ(物語)やインタビュー、観察、データの文書化・コード化、さらに質的「研究の経過と結果をどう表現/提示するか」など、質的研究に取り組む上で必要なことが詳細に解説されています。特に、質的研究の理論的な背景を確認しておきたい場合には必読です。なお、巻末に、訳者による「日本語で読める質的研究の文献」「質的研究用語集」がついていて便利です。

『聞き方の技術：リサーチのための調査票作成ガイド』 山田一成、日本経済新聞出版社、2010.2 【3610:3311】

サーベイやアンケートなどで調査票を作ることがあれば、この本を開いてみてください。「ワーディング」(あいまいな質問や誘導尋問を回避するにはなど)、「選択肢」(「わからない」をどう扱うかなど)、「尺度」(極端な回答、中間的回答、タテマエの回答など)、「調査票の作り方」などが実例に即して解説されています。